

調査研究推進委員会 樹形図ワークショップ企画

「2022年度版日本語教育の樹形図」を使って「日本語教育の参照枠」による
教育現場への影響と変化を考える 開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

日時：2023年3月25日（土）13:00～15:00

開催形式：Zoomによる開催

参加者：最大24名

本ワークショップは、「2022年度版日本語教育の樹形図」をツールとして用い、現在注目されている「日本語教育の参照枠」によってもたらされる教育現場への影響や変化について考えることを目的に企画されました。参加者募集が開始された2週間後にはほぼ定員が埋まり、「2022年度版日本語教育の樹形図」及び「日本語教育の参照枠」に高い関心が寄せられていることがうかがわれました。

当日の前半は、本ワークショップの趣旨及び「2022年度版日本語教育の樹形図」の説明に続き、「日本語教育の参照枠」の活用を考える～学習者と教師にもたらす変化とは～という題目で「日本語教育の参照枠」に関する説明がなされました。

後半は、「A：高等教育機関等における日本語教育」「B：地域社会における日本語教育」「C：キャリア形成のための日本語教育」という3つのテーマについて、AとBは2つずつ、Cは1つの合計5グループに分かれてディスカッションが行われました。「2022年度版日本語教育の樹形図」を参照しながら、「日本語教育の参照枠」を取り入れることによって解決できる課題とそうでないもの」「日本語教育の参照枠」を取り入れる際に課題となることは何か、何をすべきか、どのような連携をとるべきか」という2つのトピックについて話し合いました。

各グループでは活発なディスカッションが行われました。ディスカッション後の各グループの報告では、「日本語教育の参照枠」を現場にどう取り込んでいくのが難しい」「樹形図に反映されていない日本語教育の分野があるのではないか」「なぜ、その枝に分類されているのかわからない項目がある」などの意見が寄せられました。後者二つのご意見に対する回答は、事業成果報告「ワールドカフェの開催と「2022年度版日本語教育の樹形図」作成について—ツールとしての活用に向けて—」の2章をご参照ください。各グループの報告に対しても、質問や意見が多数出され、ワークショップは盛況のうちに幕を閉じました。

ワークショップ後のアンケートは、参加者の80%以上の方にご協力いただきました。「2022年度版日本語教育の樹形図」の説明については、「よく理解できた」「理解できた」という回答の合計が83.4%、「日本語教育の参照枠」に関する説明については、「よく理解できた」「理解できた」という回答の合計が88.9%、グループ活動については、「とてもよかった」「よかった」という回答の合計が83.3%、オンラインによるプログラムの運営については、「とてもよかった」「よかった」という回答の合計が88.9%で、全体的に高評価でした。グループ活動のテーマ設定やディスカッションの進め方については、一部改善を要する旨の意見が寄せられ、今後の課題としたいと思います。

本ワークショップを通し、「日本語教育の参照枠」への理解が深まるとともに、「2022年度版日本語教育の樹形図」への関心と認知度が高まったものと思われます。今後も「2022年度版日本語教育の樹形図」がさまざまな場面で活用され、広く普及していくことを期待します。

なお、「2022年度版日本語教育の樹形図」については、学会HPの以下をご参照ください。「2022年度版日本語教育の樹形図」とリーフレット「「2022年度版日本語教育の樹形図」—その紹介と活用方法—」で、樹形図とその活用方法を紹介しています。

お知らせ「2022年度版日本語教育の樹形図」を公開いたしました」

https://www.nkg.or.jp/news/2022/2022_12_25.html

(文責：調査研究推進委員会)